

テーマ 1 今後の県政に期待する取組と県の事業で刷新すべきもの（10 件）

1－1 【秋田市 70 代】

県はこの 4 月、県営陸上競技場をリニューアルオープンしましたが期待していた電光掲示板は未設置のままです。東北や全国の主要な競技場で電光掲示板が無いのは秋田県だけです。早期の設置を求めます。改修のメインはトラックを 1 レーン増やしたことでタータンの色を茶色から青色に変えただけです。県は県営陸上競技場のトラックを 9 レーンに拡張したことにより県内で唯一の日本陸上競技連盟（J A A F）第 1 種公認、国際陸上競技連盟（I A A F）の認証を受けた県内唯一の施設となり、全国規模の大会開催はもちろん、国際大会も可能で、アジア・世界記録も公認されるとアピールしていますが、電光掲示板がない競技場での全国大会・国際大会等の開催は出来ないでしょう。2022 年 6 月、秋田県で初開催の日本陸上混成競技大会を観戦中、県外から訪れた陸上関係者の方から「どうしてここにはスクリーンがないのですか。県営競技場ですよ」と話しかけられ、返す言葉がありませんでした。県が決めた「スポーツ立県秋田」宣言（2009 年）はむなしく泣いています。

陸上競技の観戦者（テレビ・ユーチューブなどの視聴者も）は電光掲示板で出場者を確認し、競技後の順位や記録を見ることが当たり前となっています。電光掲示板は出場選手や関係者のモチベーションを高め、競技力向上へのインパクトを与えます。また、陸上競技に限らず他の競技やイベントなど多目的に利用できます。議会で取り上げられないのは不思議でしょうがありません。スポーツ関係の議員もいるのに極めて残念です。

1－2 【大仙市 50 代】

秋田市内の公共施設に駐車場が十分でないことに、大いに不満があります。秋田市に住んでいる方にとっては、八橋に体育施設が集中していることは心地よいことなのかもしれませんが、他の市町村に住む県民全体のことを考えていないのではないかと、思わずにはられません。観客席数、収容人数に見合った駐車場台数を確保して、シャトルバスを運行しないで済むようにしてもらいたいです。秋田県は車社会です。しかもマイカー社会であります。積雪寒冷地であるから、田舎であ

るから、マイカーを持たずに生活はできないと言っても過言ではありません。秋田市は秋田市の利便性だけを優先しても仕方ないのかもしれませんが、県全体の視点を持って秋田市の街作りに意見を述べることができるのは、県知事と県議会だけなのではないでしょうか？

たとえば、こまちスタジアムでプロ野球があると言えば空港跡地からシャトルバス。市立体育館でハピネッツと言えばシャトルバス。ソユースタジアムでブラウブリッツと言えば路上駐車。路上はすぐに埋まってしまって、6車線渡った駐車場もやっぱり狭い。八橋の県立体育館と野球場とサッカー場と陸上競技場で同時にイベントがあったらどうするつもりなのでしょう？施設はあるのに、マイカーで来る人は、自己責任で難儀して駐車せざるを得ない。

たとえば、由利本荘市のナイスアリーナは、駐車場がとても広いです。これは成功例だと思います。

私が考えるに、八橋に県立体育館を作るとはもう動き始めてしまったので、古い八橋球場は外旭川に移転させて、跡地は立体駐車場にすべきです。陸上競技場は整備してブラウブリッツのホームにして、A S Pスタジアムはラグビー場にして、今あるサッカー・ラグビー場は立体駐車場にすべきです。陸上競技は雄和の県立陸上競技場に集約するべきです。スポーツ科学センターも雄和のトレセンに集約すれば、駐車場にすることができると思います。また、こまちスタジアムの駐車場もナイスアリーナのように大きな駐車場を追加で整備して、プロ野球の試合時にシャトルバスがいらないようにします。現在の市立体育館は屋根の形状がおかしくて将来的に維持管理費がかかりすぎるので取り壊し、秋田中央インターまたは秋田北インター周辺に広大な駐車場とともに新設します。八橋球場の移転先として、一緒に建てて駐車場を共有するのもいいかもしれません。

市立体育館周辺はどの大会でも駐車場が全く足りず、交通渋滞を引き起こしています。あの場所では、他市町村からマイカーで来る者が「楽しかったまた来よう」とは絶対に思えません。駅から遠いから、絶対にマイカーで行こうとするはずなのに、駐車場がない。完全に市内の都合しか考えていません。特に冬場なんかは、誰だってバスに乗りたいとは思いません。雪に降られてベチャベチャのダウンジャケットやコートで、ぎゅうぎゅう詰めのバスは誰だって嫌なはずです。みんなマイカーで直近まで行きたいんです。そしてマイカーで大きな道路を歩いて安全に帰りたいのです。

結論としては、八橋周辺と市立体育館とこまちスタジアムと県立陸上競技場・トレセンの位置関係と駐車場問題を一体的に関連づけて、すべてを盛り込んだ配置計画を県主導でもう一度ゼロから考え直してほしい、すべての県民にとって便利な

体育施設を再配置してほしいというのが、大仙市に住む私からのお願いであります。

1-3 【秋田市 80代以上】

「秋田スポーツ立県」というキャッチフレーズを以前見た事が有ります。県立体育館に有ったと思っております。

私はテニスを生涯のスポーツとしております。テニスを日々楽しんでいる人は、健康寿命が、他のスポーツよりも9.7年長いというデータが有ります（インターネット検索可）。

テニスを愛する者として県議会にお願いが有ります。

- ・ スポーツ立県というが、当県は県のテニス施設利用は12月～3月までできません（東北地域の他県は可能）。そのような事で関東地域へ転校したテニス愛好者（県の有力選手）が居ると聞いております（市の施設としては3コートは有りますが、冬季は抽選になっており当選確率は低い）。
- ・ 秋田市「向浜テニスコート」の整備をお願いいたします。施設としては10面のスペースが有りますが、使用できるのは5面です。その5面はクレーコートなので通常は使用する人は少ない（オムニコートが一般的）。他の5面は雑草が生えて使用不可です（整備されていない）。また、観客席を兼ねた休憩設備は「危険なため立ち入り禁止」であり、事務所兼ミーティング室も使用できません。県スポーツ振興課に聞いたところ、「台風で松の木とフェンス」が覆いかぶさったのでそのままとのことです。この状態は今年で12年になるとの事ですが、いつか改修するのですか？と聞いても不明とのことです。また、この状態は「読売新聞秋田版ページ」で令和2年に記事になっている。その記事では、翌年に何かの方法を出すようなニュアンスで書かれておりましたが、現在以前のままです。

上記から、向浜テニスコートを「ドーム型テニスコート」または「多目的ドーム」として冬季間もテニスを出来る施設の検討をお願いいたします。他のスポーツは通年出来ますがテニスは年の3分の1が休眠状態です。県スポーツ振興課では議会を通らなければ予算設定が出来ませんとの事。既存の施設があるのだからと思います。

そのような施設があると全国大会や他県との交流試合が可能です（雄和に20面コートが有りますが雨天に当たると、折角他県より来て今日は中止ですという事になってしまうのです。他県では屋内コートでゲームを短縮して来た人に納得して貰える。）

私が先ずお願いしたいのは、市の八橋テニスコートのように人工芝コートにして頂きたい（県の施設で小泉潟公園テニスコートは改修拡大されたが遠くて行けない、県中央の向浜なら自転車やバスがある）。そのあとで屋根付き施設にすれば良いと思います。

他のスポーツ同様にテニス競技も県施設を通年使用できるようにお願い致します。

秋田県にはテニス団体が有ります。(秋田県テニス協会 秋田県ソフトテニス協会 秋田県シニアテニス協会 全日本女子テニス連合秋田支部 秋田市テニス協会)

1－4 【秋田市 30代】

県政の刷新に向け、K P I を導入し、客観的かつ大胆な事業評価を推進。役所内のP D C Aサイクル完結では、不要な事業が継続されやすい課題がある（参考：<https://www.youtube.com/watch?v=FQ9BnC6YjHU>）。

評価には県内総生産や観光客数などの既存データを活用し、経済波及効果を測定。県民満足度調査は曖昧なので事業の評価への利用を避け、利用者数や参加率と事業にかかった予算など行動ベースの指標で代替。

社会的価値を主張する事業は、目的の明確化と厳格な成果測定を義務付け、外部評価委員会で客観性を担保。たとえば、K P I 達成率 20%以下は原則廃止、40%以下は縮小をデフォルトとし、事業の特性（例：経済効果重視の観光振興は 30%以下廃止、社会的価値重視の文化事業は 30%以下廃止・50%以下縮小）に合わせ基準を調整。低達成率事業の継続は議会承認を必須にする。

1－5 【秋田市 70代】

従来と同じことをやっても駄目。一步でも前に進むべき。

1 地方自治を特に若者に理解させる方策の実現

- ・ 県議会の開催に合わせ、教育委員会と連携し、「中学生」や「高校生」を対象として、地方自治の授業の一環として傍聴の機会をつくる（県教育委員会は各市町村の教育委員会に通知し、同様の措置を講ずるべき）。
- ・ 「県議会だより」は、掲載様式をもう少し砕けた様式と内容とし、議会直後にどういう質疑が多かったのか、質疑

事項と質疑議員数や時間等を公表し、後日その内容をタイムリーに発行すべき。

2 県議会議員と国会議員（県選出）との懇談会の開催

所属政党とは関係なく、県選出の国会議員と一堂に会して情報交換を行い、県政に生かす機会をつくる（地方議会が所属政党に拘っている限り進歩なし）。

3 県議会議員と住民（若者）との意見交換会の開催（議員は選挙区の住民から選出されその代表であるが、他の議員と他の選挙区の住民から意見を聞くことも県全体を考えるうえで重要である）

県内をブロック分けし、住民及び若者との意見交換会を行い、県政に対する意見を把握し、知事に提言する（若者は、今、何を望み、将来地域をどうしたいのかを議員が直接把握しないと県政を前に進めることはできない。若者だけを集めた意見交換会も開催し県政に生かす）。

4 生活しやすい街づくりのための道路整備

- ・ 人口減少とコンパクトな街づくりを見据え、現在の市町村を結ぶ主要道路は優先的に予算をつけ、道路幅員の拡張（2車線の幅に左右90cmずつ）と、蛇行路線の緩和、凹凸道路の平坦化を推進する（走行時間の短縮化と徒歩でも自転車車でも安全に移動できる道路とする）。
- ・ 歩行者の安全対策のための車道と歩道を区分けする「コンクリートブロック」の設置は、時の経過とともにブロックの両端に土砂が溜まり、かつ、雑草が繁茂して歩道本体が狭隘化してきて歩きにくく、自転車の安全走行も困難。また、除雪の際に障害物ともなりうる。ブロックは、街中か、学童の通学路に限定して設置し、幅員の拡張を優先する。
- ・ 街中の歩道上に変圧器等の箱が設置（特に新国道に多い）されているが、歩道をより狭くし、通行の障害になっている現状を直視し、埋設か、より道路側に移設し幅広い歩道の確保を図り、安心して使える歩道に整備する（箱と歩道のブロックとの間隔が30cm、箱の幅が50cm程と歩道がその分狭くなっている。造ればよいという考えでなく、歩道を少しでも広く確保し、安心して通行できるように考えて工作物を設置すべき）。
- ・ 街路樹や庭木が歩道（側道）に伸びて、狭い歩道をより狭くし、通行障害となっているので一斉点検し切除を求めるようにさせる。
- ・ 街中を自転車で安心して走行できる道路づくりを行う（エコで健康にも寄与。これまでも今も道路造りの視点は、自

動車優先で、人優先ではないのではないか。歩道は狭く、あげくは側溝の蓋が歩道となっている箇所もあり。道路幅を先ず左右に拡張することが最優先。欧州の道路政策をもっと参考にすべき)。

5 若者が遊べる、誇れるモノの造成を

- 日常的に身近で遊べる場所をつくる

例えば、雄物川に広がる河川敷（秋田大橋付近）を利用して、ゴルフ場、ゲートボール場等が整備されているが、大人用の施設がメインで、子供用の施設がない現状を踏まえ、子供らが野球やサッカー等ができるグラウンドを身近な場所に造成する。南大橋近くの河川敷には、畑が造成されているが河川国道事務所から利用許可がなされて利用されているのか疑問、また、対岸（豊岩）の河川敷には、野球グラウンド、ラジコン用飛行場が設営されているが、活用されない河川敷が多数存在。

グラウンド造成方法は、国土交通省から使用許可をとり、雑草を取り除き、ブルドーザーで地表を均せば、即、完成し、使用可能で経費も少なくて済む（石が少ないのが利点だし、市内の近くに設営できるのがメリット。中央公園は遠過ぎる）。

グラウンド造成方法の一つとして、建設業者にボランティアで造成（経費の一部助成もあり）してもらい、立看板に造成した業者名の表示（期限設定もあり）を認める（国民の財産を有効に利用しなければもったいない → 東京の荒川の河川敷は、野球、サッカー等に市民の多くが利用。一度見学されたし）。

- 雄物川の河川堤防を利用した長距離の東北初の「ナショナルサイクルルート」仮称「雄物川サイクリングロード」（秋田市から湯沢市まで）の設定を働きかける

秋田のお米を育む雄物川、洪水で被災し復旧させた河川堤防、大曲の花火を開催する河川敷等のキャッチフレーズとライダーが走行中、堤防等に異常を見つけた際に 200m 毎の距離を示す立札（QRカードも添付）を読み取りスマートフォンで河川国土事務所に情報の体制構築もできることも設定のメリットとして陳情。現在、国内に設定されている箇所は6箇所、距離は最短 70km から最長 1,487km。「ナショナルサイクルルート」の設置要件に適合しないのなら、県と国土交通省と共同で「雄物川サイクリングロード」を独自で設定する。堤防にはアスファルトの管理道が敷設されるのでこれを利用しないのはもったいない。

1－6 【秋田市 40代】

障害児教育、障害児福祉の取り組みを進めるべきです。

現在、秋田県医療療育センター（通園部）を含めた児童発達支援・放課後等デイサービスは、専門家が不足しています。

まずは障害児を含めた家族が明るく暮らしていけるよう、県内の専門性を高めることが急務です。

秋田市役所では本年、放課後等デイサービスの職員の資格所持者の内訳を調査したと聞きました。資格所持者の内訳は保育士・特別支援教育ではない教員に偏りが見られるはずですので、ぜひご確認いただければと存じます。

県立の医療療育センターの通園部ですら、未だに異なる専門性のある職員でチームを組めていないと思います。県立で来ていないことを民間の放課後等デイサービスで実践することは、更に難しいだろうと考えています。

また、放課後等デイサービスにいる職員の離職率も確認が必要だと思います。大人が居続けられない場所に、専門性を求める子どもたちを預ける保護者の不安はとてつもなく大きいものです。

切れ目のない専門性のある支援、これがよく謳われる言葉ですが、秋田県は遠いところにいると感じています。どんな子どもも満たされて暮らせるようになるには、どうしたらいいか・・・分かっていることもあるはずです。障害児教育・福祉の刷新は急務です。

1－7 【にかほ市 50代】

1 移住推進事業について

私自身、移住者であります。他県に比べて移住者への補助制度が劣っていることに加えて、サポートが非常に手薄く感じるが多かったです。隣県の山形などでは、県として市町村を束ねた移住推進がなされており、雲泥の差があると感じます。具体的には、下記のような移住者にむけたメールでもうかがえるかと思います。

登録移住者 各位

いつもお世話になっております。（公財）秋田県ふるさと定住機構です。さて、この度全県の移住者様を対象にオンライン交流会を開催いたします。県内各地域の移住者様と交流できる機会ですので、是非ご参加ください。

／／全県対象／／1／25（土）／／ オンライン／／ ～ 全県の移住者様を対象に、オンライン移住者交流会を開催

します！<https://forms.office.com/r/a0qm3urhm7>

お問い合わせ：(公財) 秋田県ふるさと定住機構

よろしくお願いいたします。

公益財団法人 秋田県ふるさと定住機構 TEL 018-826-1731

移住して3年の間、ふるさと定住機構と移住者とのコミュニケーションもゼロの状況でこのようなメールが唐突に送られてきて、参加したいと感じるでしょうか。

移住者を増やしたいのであれば、移住後にちゃんと定住して、思い描いた移住生活が送れているのか、秋田へ来てからの暮らしをサポートするのが定住機構の役割ではないでしょうか？秋田県への移住として、ぜひ秋田の良さを知ってもらい、移住者を増やしたいと考えるなら、この移住推進事業の見直しを行っていただきたいと思います。まずは他県の移住推進事業のベンチマークを行って、秋田県と比較することから始めてほしいと思います。

2 若者チャレンジへの支援事業

若者が活躍できる社会を目指して、若者の夢を実現できるような若者起業を支援している事業が、実際に起業者数増加や、新規事業の創出に繋がっていると感じません。私の住まうにかほ市近隣では、首都圏から来た若者による起業と地域課題解決に向けた取り組みが行われていますが、地元住民の幸福度が上がるような活動ではなく、ライバルの少ない地方だから様々手掛けているようにしか見えていないと感じる話も耳にします。地元住民や地元出身の若者がチャレンジして成長できるような、秋田が発展的に成長できるような取り組みであるべきで、そのような支援事業の方向となるように今一度見直しされることを望みます。

そのような観点で考えた場合に、若者そのものに支援というよりも、若者が育つ社会環境を作ることに對して支援することも重要ではないでしょうか。実際、社会経験のない若者の夢の事業に投資するより、社会経験を積んで、そして秋田でチャレンジするというようなスキーム作りと戦略的人材確保に県政として取り組む必要もあるだろうと思いました。

1-8 【にかほ市 40代】

秋田県における起業支援の強化についての提案

私は秋田県内にチャレンジの芽を多く育てる必要性を強く感じております。近年、大小さまざまな起業を志す人々が増えている一方で、県内外の起業希望者が利用しやすい支援制度が十分でなくまた周知されていないという現状があると感じています。

そこで提案したいのは、「秋田エンジェル基金」（仮称）を県として設けることです。この基金は、秋田県内での起業を支援するために、特に県外に出て戻るとは難しいものの、秋田を応援したい方や経済的にゆとりのある方々の寄付や出資を受け入れ、起業家に対する補助や支援として活用できる仕組みとするものです。

既存の補助制度（若チャレなど）は存在していますが、県外からの起業希望者にとっては見つけにくく、活用のハードルが高いと考えられます。県外在住で秋田を含めた地方での起業を考える人を呼び込むことも県内で育てることと同様に重要です。秋田エンジェル基金があれば、県の内外を問わず多様な支援者が秋田の起業家を後押しできる環境が整い、地域経済の活性化や若者の定着にもつながると確信しております。

県政におかれましては、ぜひこうした新たな支援策の検討を進めていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

最後に、鈴木県知事には、群馬県の山本知事のように国政に対しても強くアピールする姿勢が求められます。そこには、実現力や成果を伴う覚悟が必要かと思います。そのような意気込みをもって取り組まなければ、秋田県は次のステージへ進むことが難しいと考えます。

以上、県議会への意見として提出いたします。

秋田県から日本が変わる、秋田はそんなポテンシャルの高い県だと感じております。県政において引き続きご尽力いただけますようお願いいたします。

1－9 【秋田市 70代】

1 藤田嗣治の作品の展示について

平野政吉美術館が千秋公園の入り口にあったころ、仙台の知人が秋田市の会議に来ました。会議の後でどこか行かれたかと尋ねると、藤田嗣治の絵を見たという答えでした。藤田嗣治はかくも有名なのだと知りました。

藤田嗣治の絵は秋田県立美術館に展示されていますが、主な作品は数点しかありません。「タピスリーの裸婦」、パリで

人気を博し藤田の評価を不動のものとした「5人の裸婦」、「自画像」(1929)などは観ることができません。こうした作品を正確に写した写真で展示してもらいたい。この夏東京ステーションギャラリーで「藤田嗣治 絵画と写真」展が開かれた。藤田の作品や写真をキーワードに再考する試みといわれる。

写真であればコストもそれほどかからず、秋田での藤田嗣治の様子や、戦後物議をかもした戦争画も展示できます。以前、東京で大きな戦争画を実際に観たことがありましたが、戦争を賛美し鼓舞する意図は全く感じられず、むしろ反戦画の趣が強かったと思います。秋田県立美術館を訪れた人が藤田嗣治の画業を知り、人生の軌跡を体験できれば素晴らしいことです。2022年、軽井沢に藤田嗣治の作品だけを展示する美術館がオープンしました。藤田嗣治は今も見る人を引き付けて離さないようです。

2 秋田の歌について

テレビを見てみると、秋田を取り上げる番組が少ない気がします。歌番組でも秋田を歌う歌謡曲がほとんどないのが実情です。この間、新聞で詩人のあゆかわのぼるさんも同様のことを述べられていました。歌謡番組では秋田は素通りです。県の協力で、たとえば松任谷由美さんにノスタルジックなイメージの歌を作詞、作曲してもらいたい。誰もが歌いたくなる、心に残る歌になれば秋田のイメージアップにつながると思います。第2の県民歌を歌いたい。

3 金足農業高校を甲子園であばれる公立高校にする

秋田県立金足農業高校（以下金農）を高校野球の強豪校にしたい。この前の夏の甲子園大会準優勝と去年と今年の2年連続夏の甲子園出場で、金農は全国にその名が知られるようになりました。金農を甲子園の強豪校にしましょう。秋田人のひたむきさと挑戦する魂を、金農野球の戦いぶりで、全国に知ってもらいたい。人口が減っても、がんで亡くなる人の割合が多くても、東京大学の合格者が減っても、甲子園で果敢に戦う戦士の姿を全国民に見てもらいたい。そのためにどうするか。普通科をつくるとか、最新のトレーニング機器の購入など、県がアイデアを募り支援する。強い公立高校野球部だからこそ、注目されその強さに意義があるのです。県外の生徒も入りたくなるような魅力ある金農野球部となることが、私の夢です。

以上秋田県政に期待することを書きました。

1－10 【由利本荘市 70代】

その筆頭は風力発電事業計画の見直しである。